

2015年9月期 第1四半期 決算説明資料

2015年2月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2015年9月期 第1四半期 業績(連結)

(単位：百万円)	2014年9月期 第1四半期 (A)	2015年9月期 第1四半期 (B)	前年同期比 (B) - (A)	2014年9月期 通期実績	2015年9月期 通期業績予想
売上高	282	961	679	3,911	7,900
売上総利益	213	419	205	2,398	—
営業利益	△195	△109	86	555	1,250
経常利益	△76	63	140	684	1,200
当期純利益	△82	73	155	923	1,100

第1四半期の主要営業概要

ポイント①⇒再生可能エネルギー事業のアレンジ業務が好調を維持。

再生可能エネルギー事業のアレンジが、EPC(設計、調達、建設)業者との協働により、前期後半からの好調を維持。
再生可能エネルギー発電設備の接続申込に対し、電力会社が回答を保留した問題の影響を受ける案件はほとんどなし。

ポイント②⇒ベンチャーキャピタルファンド(FGF)の投資回収が進むが、 今後のファンド決算により損益取込予定。

2014年における投資先企業の研究開発の進展、株式譲渡やIPO等により、FGFファンドの価値向上が見込まれるが、
今後のFGFの決算(12月決算)により、当社持分に係る損益を取込む予定(為替差益を除き当四半期の損益計上はない)。

今後の事業展開、課題。

- ☑ ムーミン・テーマパーク事業(株)ムーミン物語)の候補地選定の支援。
- ☑ 再生可能エネルギー事業の更なるアレンジ業務の実行。
- ☑ ベンチャーキャピタルファンド(FGF)の投資回収の進展。
- ☑ 不動産事業における戸建住宅建築・販売へ向けた計画の着実な実行。
(第3四半期以降の売上計上を予定)

セグメント別業績

【売上高はセグメント間取引を含む。】

	(単位:百万円)		2014年9月期 第1四半期	2015年9月期 第1四半期	前年同期比	主な連結会社
1	投資銀行事業	売上高	158	215	56	フィンテックグローバル (FGI)
		営業利益	96	164	68	フィンテックアセットマネジメント (FAM)
2	不動産事業	売上高	103	643	539	ベルス、ユニハウス、 ベターライフハウス
		営業利益	△10	△26	△15	
3	建設事業	売上高	-	85	85	岡山建設
		営業利益	-	△9	△9	
4	その他	売上高	20	19	△1	パブリック・マネジメント・コンサルティング (PMC)
		営業利益	△86	△8	77	(注)
	調整額	売上高	0	△2	△1	
		営業利益	△195	△230	△35	
	連結PL計上額	売上高	282	961	679	
		営業利益	△195	△109	86	

(注) PMCは2014年11月28日付の株式譲渡により、当第1四半期末に連結の範囲から除外。

・再生可能エネルギー関連のアレンジメント業務受託が好調で、売上・営業利益が大幅に増加。有力なEPC事業者(設計、機器調達、建設を含むプロジェクト事業者)との協働や発電所開発資金の貸付により、優良な案件を確保し、発電事業者に投資機会を提供。

・(株)ムーミン物語のテーマパーク事業展開(候補地選定等)を支援。

・ベンチャーキャピタルファンド(FGF)から、投資先企業の株式譲渡による分配金を受領。同ファンドへの投資に係る損益は、今後のファンド決算の報告により計上予定。投資回収の可能性が高い投資先が増加。FGFへ更なる出資も実行。

・(株)ベルスは、職域の福利厚生サービスの持家支援等が堅調に推移するも、不動産業務の進捗が遅れる。今後は、持家支援サービスや社宅業務の新規顧客獲得を継続し、福利厚生サービスの拡大をベースに不動産業務を軌道に乗せていく予定。

・(株)ユニハウスの不動産仲介業務は、物件紹介の職域ネットを強化。職域提携社数が増加し、ビューアー数が大きく伸びる。

・ベターライフハウス(株)等の不動産販売業務は、戸建用地の仕入強化。取得用地の一部売却で売上計上。戸建建築は計画策定が進む。

・建設事業は、当第1四半期に工事進行基準適用の大規模工事が完工。工事完成基準適用の完工は小型案件が中心。受注工事進捗は順調であり、工事完成基準適用の工事案件の未成工事支出金は前期末より99百万円増加し、101百万円となる。

・公会計コンサルティング事業は、総務省の地方公会計制度の整備方針が明確化され、様子見であった自治体からも年度途中に関わらず契約に至る。コンサルティング事業パートナーに対する研修業務をコンサルティング事業に加えたため、安定的な売上を確保。

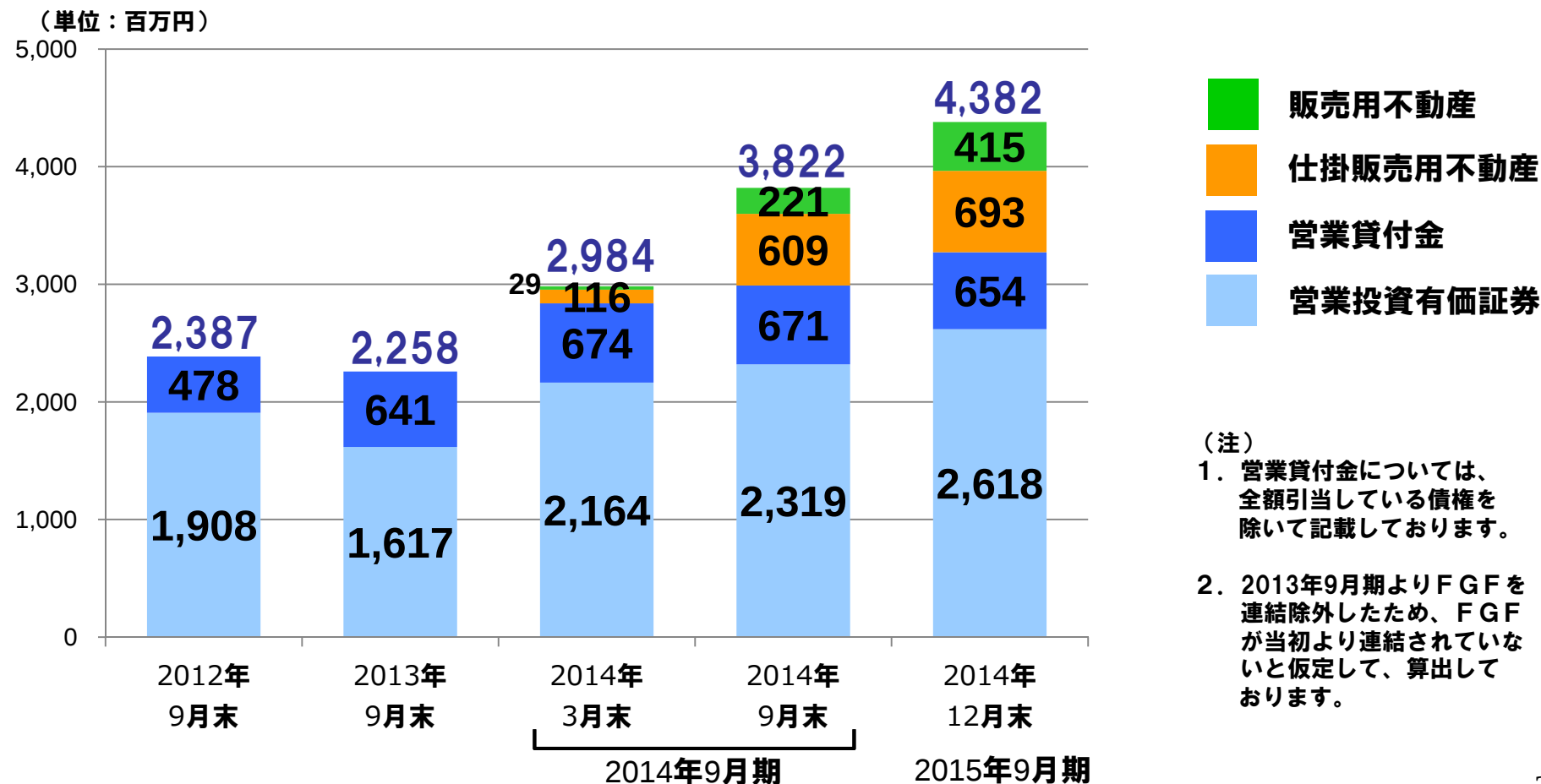
営業投資有価証券、販売用不動産等の推移(連結)

・営業投資有価証券

2014年12月末残高は、2014年9月末比で299百万円増。

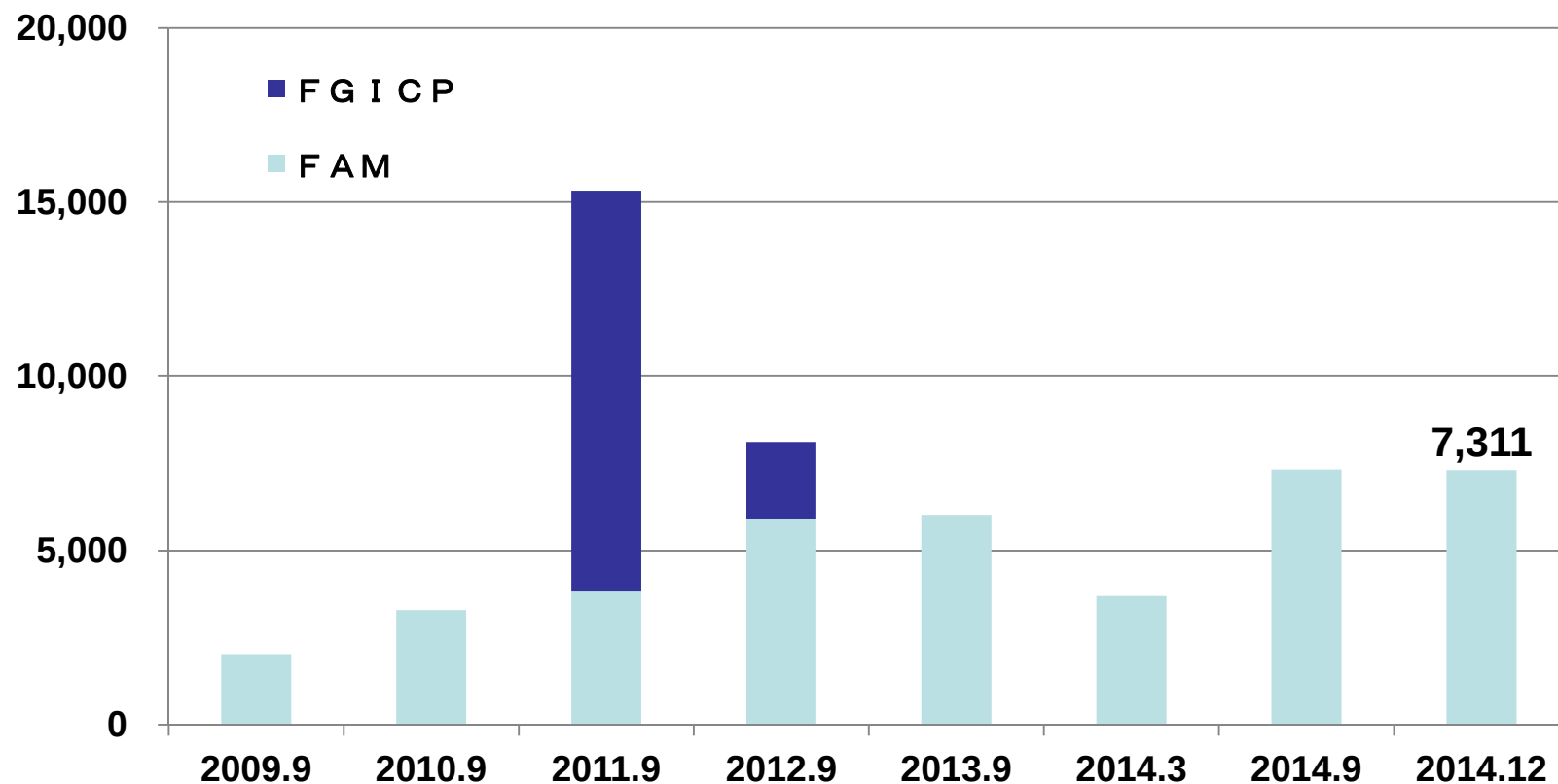
FGF(IT、バイオ関連のファンド、ドル建)への投資が、新規投資及び円安による為替差益により増加。

・戸建住宅用地の取得 — 販売用不動産、仕掛販売用不動産の合計額が2014年9月末比で278百万円増加。戸建住宅用地の取得が進む。



アセットマネジメント事業の受託資産残高(AUM)の推移

(単位：百万円)



フィンテック アセットマネジメント (FAM) の子会社化
FGI キャピタル・パートナーズ (FGI CP) の子会社化

2014年9月期

2015年9月期
第1四半期

【当社が出資するFINTECH GIMV FUNDの資産額(2014年9月末純資産26百万ドル)は含んでおりません】

連結貸借対照表

資産の部

14年9月期 15年9月期 増減
第1四半期

流動資産	6,591,999	7,082,007	490,008
現金及び預金	2,034,917	1,727,820	△ 307,097
受取手形・売掛金	255,142	389,972	134,829
完成工事未収入金	247,275	63,577	△ 183,697
1 営業投資有価証券	2,319,357	2,618,372	299,014
営業貸付金	857,021	839,882	△ 17,139
2 販売用不動産	221,332	415,397	194,065
仕掛販売用不動産	609,460	693,625	84,164
3 短期貸付金	153,412	335,897	182,485
その他	178,107	276,974	98,866
貸倒引当金	△ 284,028	△ 279,512	4,515
固定資産	860,247	873,307	13,060
有形固定資産	121,373	119,700	△ 1,672
無形固定資産	164,331	182,909	18,577
投資その他の資産	574,541	570,697	△ 3,844
資産合計	7,452,246	7,955,315	503,068

- ベンチャーファンド(FGF)への投資
為替変動(ドル建の投資先)等による増加
- 主に不動産事業での戸建用地取得による増加
- 太陽光発電事業を行う非連結子会社への貸付が増加
- 主にベンチャーファンド(FGF)からの分配金(248百万円、元本部分を含む)受領による増加
- 不動産事業における借入、私募債発行による増加

負債の部

(単位: 千円)

14年9月期 15年9月期 増減
第1四半期

流動負債	1,459,524	1,819,527	360,002
支払手形・買掛金	254,826	155,733	△ 99,093
工事未払金	65,396	73,770	8,374
5 短期借入金	628,100	717,083	88,983
未成工事受入金	55,867	264,590	208,722
4 預り金	187,038	343,852	156,813
その他	268,296	264,498	△ 3,798
固定負債	457,877	593,158	135,280
5 社債	24,000	144,000	120,000
長期借入金	226,591	246,037	19,446
退職給付に係る負債	148,926	148,012	△ 914
繰延税金負債	45,797	41,767	△ 4,029
その他	12,562	13,341	778
負債合計	1,917,402	2,412,685	495,283

純資産の部

株主資本	5,507,738	5,516,403	8,664
資本金	3,351,561	3,351,561	0
資本剰余金	929,373	929,373	0
利益剰余金	1,226,803	1,235,467	8,664
その他の包括利益 累計額	△ 573	△ 573	0
新株予約権	4,168	4,677	508
少数株主持分	23,510	22,123	△ 1,387
純資産合計	5,534,844	5,542,629	7,785
負債純資産合計	7,452,246	7,955,315	503,068

連結損益計算書

		2014年9月期 第1四半期	2015年9月期 第1四半期	(単位: 千円) 増減
売上高	1	282,421	961,693	679,272
売上原価		69,219	542,593	473,374
売上総利益		213,201	419,100	205,898
販売費及び一般管理費	2	408,851	528,612	119,761
営業損失(△)		△ 195,649	△ 109,512	86,137
営業外収益		120,107	3 182,077	61,969
営業外費用		676	8,654	7,978
経常利益又は経常損失(△)		△ 76,218	63,909	140,128
特別利益		17	101	83
特別損失		4,033	1,280	△ 2,753
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)		△ 80,234	62,731	142,965
法人税等		△ 4,813	△ 9,428	△ 4,615
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)		△ 75,420	72,160	147,580
少数株主利益又は少数株主損失(△)		6,767	△ 1,295	△ 8,062
四半期純利益又は四半期純損失(△)		△ 82,188	73,455	155,643

1 投資銀行業務(アレンジメント業務受託)好調により売上高が増加
不動産事業、建設事業による売上高、売上原価が増加 [2014年3Qから両事業の子会社が増加(1社⇒6社)]

2 2014年1Qに計上していた仲裁費用はなくなったものの、子会社増加及び投資銀行事業の人員補強により、人件費、地代家賃が増加。また、不動産事業の宣伝広告費等が増加。

3 為替差益179百万円の計上(主にFGIのベンチャーキャピタルファンド(ドル建)への投資によるもの)

参考資料

- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 連結業績推移（6期分）
- 子会社単体業績の推移

個別貸借対照表

資産の部

	14年9月期	15年9月期 第1四半期	増減
流動資産	4,837,705	5,103,645	265,940
現金及び預金	1,172,656	658,781	△ 513,875
売掛金	205,826	350,584	144,757
営業投資有価証券	2,313,509	2,561,865	248,355
営業貸付金	877,981	860,842	△ 17,139
短期貸付金	443,504	826,169	382,665
その他	104,211	119,467	15,255
貸倒引当金	△ 279,984	△ 274,063	5,920
固定資産	905,930	855,151	△ 50,779
有形固定資産	107,451	106,266	△ 1,185
無形固定資産	1,961	10,976	9,014
投資その他の資産	796,517	737,909	△ 58,608
資産合計	5,743,636	5,958,797	215,161

負債の部

(単位: 千円)

	14年9月期	15年9月期 第1四半期	増減
流動負債	548,909	729,086	180,176
買掛金	46,938	72,937	25,998
短期借入金	265,100	245,100	△ 20,000
未払金	25,525	63,743	38,218
預り金	163,728	311,006	147,278
その他	47,617	36,298	△ 11,318
固定負債	100,095	101,015	920
リース債務	1,254	1,033	△ 221
退職給付引当金	69,925	71,067	1,141
その他	28,914	28,914	0
負債合計	649,004	830,101	181,096

純資産の部

株主資本	5,091,706	5,125,262	33,556
資本金	3,351,561	3,351,561	0
資本剰余金	916,784	916,784	0
利益剰余金	823,361	856,917	33,556
評価・換算差額等	△ 1,243	△ 1,243	0
新株予約権	4,168	4,677	508
純資産合計	5,094,631	5,128,696	34,064
負債純資産合計	5,743,636	5,958,797	215,161

個別損益計算書

	2014年9月期 第1四半期	2015年9月期 第1四半期	(単位: 千円) 増減
売上高	142,121	215,851	73,730
売上原価	51,344	33,307	△ 18,036
売上総利益	90,777	182,543	91,766
販売費及び一般管理費	219,021	250,723	31,701
営業損失(△)	△ 128,244	△ 68,179	60,065
営業外収益	96,498	186,541	90,043
営業外費用	1,176	517	△ 659
経常利益又は経常損失(△)	△ 32,923	117,844	150,767
特別利益	17	101	83
特別損失	—	10,930	10,930
税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失(△)	△ 32,905	107,015	139,920
法人税等	△ 4,265	△ 139	4,126
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 28,639	107,154	135,794

連結業績の推移

決算年月		2010年 9月期	2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期	2015年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	3,465	6,988	2,038	1,603	3,911	961
売上総利益	(百万円)	935	3,509	908	1,468	2,398	419
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 2,604	1,220	△ 915	88	684	63
当期純利益又は当期純損失(△)	(百万円)	△ 2,172	1,404	△ 1,274	182	923	73
純資産額	(百万円)	3,164	4,870	3,632	2,716	5,534	5,542
総資産額	(百万円)	7,352	7,682	6,417	4,770	7,452	7,955
1株当たり純資産額	(円)	20.25	31.52	19.82	22.23	37.41	37.47
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	(円)	△ 17.99	11.69	△ 10.70	1.52	6.92	0.50
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	—	11.68	—	1.52	6.89	0.50
自己資本比率	(%)	33.3	48.9	36.8	56.4	73.9	69.3
自己資本利益率	(%)	△ 61.2	45.3	△ 41.7	7.2	22.5	—
株価収益率	(倍)	—	2.6	—	21.9	9.2	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	626	1,953	959	△ 464	△ 2,208	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,281	△ 631	80	85	509	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 3,376	△ 413	△ 233	△ 128	2,065	—
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	829	1,711	2,522	1,644	2,024	—
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	72(13)	70(17)	60(19)	51(13)	109(7)	110(8)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	40(2)	15(2)	20(3)	26(3)	24(3)	27(2)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2010年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

子会社単体業績の推移

セグメント：投資銀行事業

フィンテック アセット マネジメント	2013年9月期			2014年9月期			2015年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	118	73	191	179	86	265	16
売上総利益	117	73	191	179	80	260	16
経常利益	36	△7	29	105	21	126	3

セグメント：建設事業

岡山建設 (注) 1	2014年9月期	2015年 9月期
	下半期 (2014年3月 ～9月)	1 Q
売上高	979	85
売上総利益	83	16
経常利益	26	△9

単位：百万円

セグメント：不動産事業

ベルス	2013年9月期			2014年9月期			2015年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	248	256	505	209	233	442	110
売上総利益	207	216	424	169	192	362	62
経常利益	2	3	5	△9	13	3	△32

セグメント：不動産事業

ユニハウス (注) 2 (注) 3	2014年9月期	2015年 9月期	城南開発 (注) 2 (注) 4	2014年9月期	2015年 9月期
	下半期 (2014年4月 ～9月)	1 Q		下半期 (2014年4月 ～9月)	1 Q
売上高	39	117	売上高	152	7
売上総利益	39	117	売上総利益	152	7
経常利益	△63	△2	経常利益	23	△1

セグメント：不動産事業

ベターライフ ハウス (注) 2	2014年9月期	2015年 9月期	スリーオーク (注) 2	2014年9月期	2015年 9月期
	下半期 (2014年4月 ～9月)	1 Q		下半期 (2014年4月～9月)	1 Q
売上高	20	354	売上高	321	101
売上総利益	17	30	売上総利益	30	2
経常利益	△11	△2	経常利益	8	1

セグメント：不動産事業

- (注) 1 2014年3月より連結業績に取り込んでおります。
 2 2014年4月より連結業績に取り込んでおります。
 3 2014年6月30日、ユニハウスホールディングスが城南開発(旧ユニハウス)より事業譲渡(商号譲渡を含む)を受け、商号をユニハウスとしております。
 4 2014年6月30日、ユニハウスから城南開発に商号変更しております。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2015年9月期第1四半期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実(以下、「将来情報」ということがあります)の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付(または当該資料・文書に別途明示された日付)時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

